

太宰府中学校 | 学年だより

R5.4.21

文責：1学年主任

健康診断の大切さ

早いもので、4月も3週目が終わろうとしています。19日から本格的な授業が始まり、教科ごとに先生が替わることの新鮮さを味わっていると思います。中学校の先生方は、皆個性豊かな人ばかりです。先輩や兄姉から聞いていたイメージどおりでしたか。これから1年間、一緒に学び合っよりよく成長してほしいと思います。

さて、成長といえば、入学式の日、たくさんの健康診断関係の書類を準備してもらいました。期限が翌々日までにも関わらず、全員期限内に提出していただいたことに感謝します。

4月～6月にかけて、中学校ではたくさんの健康診断を行います。

これまで、発育測定・聴力検査・視力検査・心臓検診が行われました。皆さんが静かに落ち着いて検査に臨んでいたのも、とても感心しました。

そして、今日は「尿検査」のキットを配布しています。

皆さんの中には、尿を取って学校に持って行くことに抵抗を感じる人もいるかもしれませんが、尿は「健康のバロメーター」といわれており、尿の成分で健康状態がはっきりわかります。

尿をつくる腎臓は、体内に必要なもの（養分）といらぬもの（不要物）をわける重要なはたらきがあります。このはたらきがうまくいかないと、体全体のはたらきが悪くなり、腎臓病などの重い病気を引き起こし、生命の危険につながる可能性があります。

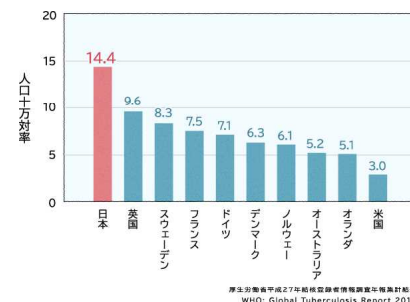
自分の健康・生命を守るための大切な検査です。今日配られた「保健だより」もよく読んで、24日に必ず提出しましょう。

（人体のしくみは、2年生の理科で学習します）

また、後日行われる検査の中に「結核に関わる検査」もあります。「結核」とは肺の病気の一つで、結核菌によって感染する性質を持っています。

かつては、命を落とす病気とも言われていましたが、現在は治療薬や技術も進んでいます。しかし、近年、世界的に日本の結核感染率が非常に高いため、現在、国を挙げて対策を行っています。

健康診断は、あなたの命に関わる大切なものです。面倒だなと思わず診て頂くことに感謝して臨みましょう。



世界の結核発症率のグラフ(左端が日本)